

以下の通り表記に誤りがありました。ご迷惑をおかけしましたことを訂正してお詫び申し上げます。

該当刷ページ	該当箇所	【誤】	【正】
初版～3刷 p.15	8	(Z/pZ)	(Z/p^nZ)
初版～5刷 p.16	2	剰余群を作る	剰余類を作る
初版～3刷 p.29	4行目	$2 \div 1 = 0$	$2 \div 1 = 2 \dots 0$
初版～6刷 p.46	下から7行目	要素の個数が有限個	元の個数が有限個
初版～3刷 p.49	下から9行目	v が生成する	σ が生成する
初版～6刷 p.52	1行目	$((\sigma^{dd})^{-1}\sigma^{dq})\sigma^r = (\sigma^{dq})^{-1}$	$((\sigma^{dq})^{-1}\sigma^{dq})\sigma^r = (\sigma^{dq})^{-1}$
初版～6刷 p.57	4行目	4, 8 に対応する	$\bar{4}, \bar{8}$ に対応する
初版～3刷 p.57	下から6行目	$\overline{(a+b)}_3 \equiv \overline{a_3 + b_3},$	$\overline{(a+b)}_3 = \overline{a_3 + b_3},$
”	下から5行目	$\overline{(a+b)}_5 \equiv \overline{a_5 + b_5}$	$\overline{(a+b)}_5 = \overline{a_5 + b_5}$
初級～6刷 p.58	下から3～6行目	よって、 p で割った余りが a , q で割った余りが b となるような数は、 0 から $pq - 1$ までに1個以下しかないことが分かりました。 つまり、 0 から $pq - 1$ までの pq 個の数のうち、 p で割った余りと q で割った余りの両方が一致するような2数はありません。	よって、 0 から $pq - 1$ までの pq 個の数のうち、 p で割った余りと q で割った余りの両方が一致するような2数はありません。 つまり、 p で割った余りが a , q で割った余りが b となるような数は、 0 から $pq - 1$ までに1個以下しかないことが分かりました。
初版～3刷 p.60	本文 8行目	$y = 13$	$y = 23$
”	下から3行目	孫氏	孫子
初版～3刷 p.68	見出し	(Z/pZ)	(Z/p^nZ)
初版～3刷 p.69	9行目	既約剰余類	既約剰余類群
初版～3刷 p.70	定理 1.9	”	”
初版～3刷 p.71	13行目	”	”
初版～2刷 p.71	下から2行目	$4(2^3 \cdot 3^4 \cdot 5^2)$	$8(2^2 \cdot 3^3 \cdot 5)$
初版～3刷 p.72	定理 1.10	既約剰余類	既約剰余類群
初版～3刷 p.80	本文6行目	Z/pZ	$(Z/pZ)^*$
初版～3刷 p.82	下から11行目	②は	②の両辺を m 乗すると、

初版～3刷 p.82	下から7行目	②の左辺を	②の両辺を
初版～3刷 p.83	下から8行目	また, pr は	また, qs は
初版～3刷 p.88	6行目	$7 \rightarrow (\bar{2}, \bar{0})$	$7 \rightarrow (\bar{2}, \bar{1})$
初版～6刷 p.88	13行目	2 の指数は	(-1) の指数は
初版～4刷 p.91	下から6行目	これに, 2を掛けたもの	これに, -1を掛けたもの
初版～4刷 p.91	下から5行目	2, 8, 5, 20, 26, 23, 11, 17, 14	$26(\equiv -1)$, $23(\equiv -4)$, 11, 17, 14, 2, 8, 5, 20
初版～4刷 p.91	下から2行目	4 と 2 を用いて	4 と -1 を用いて
初版～4刷 p.91	最終行	$\overline{4^i 2^j}$	$\overline{4^i (-1)^j}$
初版～4刷 p.92	4行目	$\overline{4^i 2^j}$	$\overline{4^i (-1)^j}$
初版～4刷 p.92	証明 1行目	$(\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^*$ の原始根を g とするとき,	g をうまく選ぶと,
初版～3刷 p.92	下から3行目	$(1+p)^1 = 1+p^1$	$(1+p)^1 \equiv 1+p^1$
初版～4刷 p.94	8行目	g を $(\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^*$ の原始根とすると, 定理1.15(i)より, $\text{mod } p$ で見て	h を $(\mathbb{Z}/p\mathbb{Z})^*$ の原始根とします。 このとき, h の $\text{mod } p^n$ での位数を m とします。 $h^m \equiv 1(\text{mod } p^n)$ より, $h^m \equiv 1(\text{mod } p)$ で, h の $\text{mod } p$ での 位数が $p-1$ ですから, m は $p-1$ で割り切れます。 $m = s(p-1)$ とします。すると, h^s の $\text{mod } p^n$ での位数は $p-1$ です。 ここで, $g = h^s$ とおきます。
初版～4刷 p.94	10～11行目	はすべて異なります。これは $\text{mod } p^n$ で見たときもすべて 異なります。なぜなら, もしも $a \equiv b(\text{mod } p^n)$ であれば, $a \equiv b(\text{mod } p)$ となるからです。	は, h で表すと指数がすべて $m = s(p-1)$ 以下ですから, $\text{mod } p^n$ で見てすべて異なり ます。もちろん, $\text{mod } p$ で見 たときもすべて異なります。
4刷～7刷 p.94	12～15行目	すると, h^s の $\text{mod } p^n$ での位数は $p-1$ です。ここで $g = h^s$ とおきます。 $1, g, g^2, \dots, g^{p-2}$ は, h で表すと指数がすべて $m =$ $s(p-1)$ 以下ですから, $\text{mod } p^n$ で見て すべて異なります。もちろん, $\text{mod } p$ で 見たときもすべて異なります。	また, $\{\bar{1}, \bar{h}, \dots, \overline{h^{m-1}}\}(\text{mod } p^n)$ は位数 m の巡回群であり, $(\mathbb{Z}/p^n\mathbb{Z})^*$ の部分群で すから, m は定理2.4より $(\mathbb{Z}/p^n\mathbb{Z})^*$ の位 数 $p^{n-1}(p-1)$ の約数です。ですから, m は, $m = s(p-1)$, $s = p^a$ ($a \leq n-1$) とおくことができます。 $g = h^s$ とおくと, $s = p^a$ は $p-1$ で割って1余りますから, \bar{g} は $\text{mod } p$ の原始根となります。

初版～4刷 p.95	14～17行目	g の $\text{mod } p^n$ での位数を m とします。 $g^m \equiv 1(\text{mod } p^n)$ より, $h^m \equiv 1(\text{mod } p)$ で、 g の $\text{mod } p$ での 位数が $p-1$ ですから、 m は $p-1$ で割り切れます。 $m = s(p-1)$ とします。すると、 g^s の $\text{mod } p^n$ での位数は $p-1$ です。	削除
初版～4刷 p.95	下から8～7行目	$(p+1)g^s$ の位数が $p^{n-1}(p-1)$ になります。 $(p+1)g^s$ は～	$(p+1)g$ の位数が $p^{n-1}(p-1)$ になります。 $(p+1)g$ は～
初版～5刷 p.104	見出し	剰余群を作る	剰余類を作る
初版～6刷 p.104	見出し(赤字)	一般の剰余群	一般の剰余類
初版～5刷 p.105～115	右ページ 右上	部分群から剰余群を作る	部分群から剰余類を作る
初版～3刷 p.113	最終行	$\tau\sigma^2 = \sigma^2$	$\tau\sigma = \sigma$
初版～6刷 p.115	証明 5行目	$G \rightarrow (Z/nZ)^*$	$G \rightarrow (Z/mZ)^*$
初版～3刷 p.115	定理 2.7	剰余類の単位元	剰余群の単位元
初版～3刷 p.123	図	$\sigma^2\alpha \cdot \tau\alpha\beta = \tau\sigma^2$	$\sigma^2\alpha \cdot \tau\sigma\beta = \tau\sigma^2$
初版～3刷 p.127～129	p.127下から11行目 ～p.129の最後		after 127-129 (PDFファイル)
初版～3刷 p.127	11行目	$g_i H$ と $g_j H$ の積は	$g_i H$ と $g_j H$ の積を集合どうしの 掛け算として計算するとは
～6刷 p.129	2行目	$(g'_j{}^{-1}g_j)H = eH = H$	$(g'_j{}^{-1}g_j)H = H$ ↑ ①
初版～3刷 p.132	7行目	$\{\sigma^2, \sigma^6, \sigma^8, \sigma^{11}\}$	$\{\sigma^2, \sigma^5, \sigma^8, \sigma^{11}\}$
初版～5刷 p.134	最終行	(問 2.5 終わり)	(問 2.6 終わり)
初版～5刷 p.139	図 右の円	v' e	G' e'
初版～5刷 p.142	7行目	$= \tilde{f}(xN) f(yN)$ を	$= \tilde{f}(xN) \tilde{f}(yN)$ を
初版～3刷 p.142	問 2.7 1行目	$Z/6Z$ への	$Z/6Z$ への
初版～3刷 p.143	下から10行目	$2Z/6Z$ への	$Z/6Z$ への
初版～6刷 p.150	9行目	$D_3 \cong$	$D_3 =$
初版～3刷 p.175	図中 (2箇所)	(赤字の) τ	τA_3
初版～3刷 p.177	下の図中	(赤字の) $\sigma^2 V$	σV

初版～5刷 p.180	証明 1行目	5次以上の対称群 S_n	5次以上の交代群 A_n
初版～3刷 p.182	6行目	定理2.15(i)	定理2.15(ア)
初版～3刷 p.188	下から7行目	巡回群の次数が ⁶	巡回群の位数が ⁶
初版～3刷 p.196	下から3行目	$x(xy + xz \dots$	$\times (xy + xz \dots$
初版～5刷 p.197	2行目	計算すると $[x^6y^4z^3w]$ は	計算すると $x^6y^4z^3w$ は
初版～6刷 p.216	見出し(赤字)	$Q[x] / (f(x))$	$Q[x] / (p(x))$
初版～3刷 p.216	下から3行目	$Q[x] / p(x)$	$Q[x] / (p(x))$
初版～3刷 p.217	図中	$3x^3 + x - 7$	$3x^3 + x^2 - 7$
初版～3刷 p.218	下から3行目	$X(x)(x^2 + x + 1)$	$X(x^2 + x + 1)(x)$
初版～6刷 p.218	最終行	$X(x)(x^2 + x + 1) + Y(x)$ $(x^3 - 2) = x + 2$	$(x^2 + x + 1)X(x) + (x^3 - 2)$ $Y(x) = x + 2$
初版～3刷 p.219	7～8行目	$X(x)(x^2 + x + 1) + Y(x)\{(x-1)(x^2 + x + 1) - 1\}$ $= \{X(x) + (x-1)Y(x)\}(x^2 + x + 1) - Y(x)$	$(x^2 + x + 1)X(x) + \{(x^2 + x + 1)(x-1) - 1\}Y(x)$ $= (x^2 + x + 1)\{X(x) + (x-1)Y(x)\} - Y(x)$
初版～3刷 p.219	下から5行目	$X(x)(x^2 + x + 1) + Y(x)(x^3 - 2) = x + 2$	$(x^2 + x + 1)X(x) + (x^3 - 2)Y(x) = x + 2$
初版～3刷 p.223	1の n 乗根 の枠内	4.6, 4.7, 4.8, 4.10	4.6, 4.7, 4.8, 4.11
初版～7刷 p.240	6～7行目	$-1 + \sqrt{3}$ を極表示すると, $-1 + \sqrt{3} = 2(\cos 120^\circ + i \sin 120^\circ)$	$-1 + \sqrt{3}i$ を極表示すると, $-1 + \sqrt{3}i = 2(\cos 120^\circ + i \sin 120^\circ)$
初版～3刷 p.247	上の枠内	$1 \leq i \leq n-1$ のとき, $\sum_{k=0}^{n-1} \zeta^{ki} = 1 + \zeta^i + \zeta^{2i} + \dots + \zeta^{(n-1)i} = 0$	$1 \leq j \leq n-1$ のとき, $\sum_{k=0}^{n-1} \zeta^{kj} = 1 + \zeta^j + \zeta^{2j} + \dots + \zeta^{(n-1)j} = 0$
”	証明 4行目	$x = \zeta^i (1 \leq i \leq n-1)$	$x = \zeta^j (1 \leq j \leq n-1)$
初版～6刷 p.252	本文 4行目	5以上の方程式	5次以上の方程式
初版～6刷 p.266	定理 4.17	a_1, a_2, \dots, a_n を	a, a_1, a_2, \dots, a_n を
初版～7刷 p.266	上の枠の下 5～6行目	(2) (1) を2回使って, $(a_1 + a_2 + \dots + an)^p \equiv a_1^p + a_2^p + \dots + a_n^p$	左辺を多項定理で展開すると, $a_1^{q_1} a_2^{q_2} \dots a_n^{q_n}$ の係数は, 多項係数 $\frac{p!}{q_1! q_2! \dots q_n!}$ になります。 q_1, q_2, \dots, q_n の すべてが p 未満のとき, 多項係数は p で割り切れますから, mod p で見て 右辺の項だけが残ります。
初版～3刷 p.266	定理 4.18	素な p について	素な素数 p について

初版～7刷 p.267	下から10行目 赤字部分	定理 4.17(2)	定理 4.17(2) の証明と同様
初版～3刷 p.270	7行目	(p_1, n) ですから	$(p_1, n) = 1$ ですから
初版～6刷 p.285	3行目	$a^3 - 2$ という	$a^3 - 2 = 0$ という
初版～6刷 p.288	4行目	$g(x)$ も α の	$f(x)$ も α の
初版～3刷 p.290	3行目	$f(x) - g(x)$	$g(x) - h(x)$
"	5行目 (2箇所)	$f(x) = g(x)$	$g(x) = h(x)$
"	6行目	$f(x)$ と $g(x)$	$g(x)$ と $h(x)$
初版～3刷 p.291	定理 5.4	剰余類群と	剰余群と
初版～3刷 p.292	本文 2行目、4行目	$f(x)$	$f(x) = 0$
初版～3刷 p.297	2行目	$\sigma(\sigma)$ は	$\sigma(\alpha)$ は
初版～6刷 p.298	下から8行目	$Q / (x^3 - 2)$ を	$Q[x] / (x^3 - 2)$ を
初版～3刷 p.300	12行目	積の方は次数下げをして示します	積の方は、 $g(\alpha)h(\alpha)$ のままだと α の次数が高くて σ の対応を使うことができないので、次数下げをします。
初版～3刷 p.302	15行目	σ による α の移り先	σ による $\sqrt[3]{2}$ の移り先
初版～6刷 p.302	下から2行目	$(i = 1, 2, \dots, 3)$	$(i = 1, 2, \dots, n)$
初版～3刷 p.327	下の図中	$\sigma(\sigma) = \beta = \alpha^2 - 2$	$\sigma(\alpha) = \beta = \alpha^2 - 2$
初版～6刷 p.327	"	$\sigma(r) = \sigma = r^2 - 2$	$\sigma(r) = \alpha = r^2 - 2$
初版～3刷 p.330	下から11行目	$\sigma e = e \sigma = e$	$\sigma e = e \sigma = \sigma$
初版～3刷 p.345	下から7行目	$m(x)g(x) + n(x)f(x) = 1$	$g(x)m(x) + f(x)n(x) = 1$
初版～3刷 p.352～354	p.352の10行目 ～p.354の最後		after 352-354 (PDFファイル)
～6刷 p.353	下から2行目	$Q(\sqrt[3]{2}\omega, \sqrt[6]{2}\alpha)$	$Q(\sqrt[3]{2}, \sqrt[6]{2})$
初版～7刷 p.354	12行目	$\sim \sqrt[6]{2}$	$\sim \sqrt[6]{2}\alpha$
"	下から3行目	$(\sqrt[6]{2})$	$(\sqrt[6]{2}\alpha)$
初版～2刷 p.355～359	定理5.21～定理 5.22	before 355-359 (PDFファイル)	after 355-359 (PDFファイル)
初版～6刷 p.357	9行目	$r_1(\alpha)y + r_0(\alpha)$	$r_1(\alpha)y + r_0(\alpha)$

3刷～6刷 p.358	定理 5.22	$g(x)$ の係数の現れる	$g(x)$ の係数に現れる
初版～8刷 p.377	定理 5.28	Q 上の方程式	Q 上の既約多項式
初版～3刷 p.379	右下の図 赤い丸枠の中	$\sigma_i \quad \alpha_i$	$\sigma_2 \quad \alpha_2$
初版～3刷 p.382	2行目	$\sigma_i(\alpha) = \alpha_i (1 \leq i \leq n)$ である。	$\sigma_i(\alpha) = \alpha_i (1 \leq i \leq n)$ です。
初版～3刷 p.382	4行目	$Q(\alpha)$ に含まれることである。	$Q(\alpha)$ に含まれるときで、このとき $Q(\alpha_1) = Q(\alpha_2) = \dots = Q(\alpha_n)$ となります。
初版～3刷 p.384	証明 2行目	最小多項式の次数を	最小多項式 $p(x)$ の次数を
〃	最終行	$g(x)$ の係数	θ の Q 上の多項式
4刷～6刷 p.384	〃	$P(x)$	θ の Q 上の多項式
初版～3刷 p.387	定理 5.31 下から2行目	$G = \text{Gal}(L/M)$	$G = \text{Gal}(L/Q)$
初版～3刷 p.390	9行目	σ は $M(\beta)$ から	σ_i は $M(\beta)$ から
初版～6刷 p.391	1行目	中間体 M に	中間体 M に
〃	下から5行目	s 次元線形空間	s 次元線形空間
初版～6刷 p.392	下から11行目	$u_j (j = 1, 2, \dots, m)$	$u_j (j = 1, 2, \dots, m)$
初版～2刷 p.393	下から2行目	$g(x) = 0$	$g_i(x) = 0$
初版～2刷 p.393	下から2行目	$\beta_1 = \beta, \beta_2, \dots, \beta_n$	$\beta_{i1}, \beta_{i2}, \dots, \beta_{in}$
初版～2刷 p.394	1行目	$\sigma_{ij}(\beta) = \beta_j$	$\sigma_{ij}(\beta) = \beta_{ij}$
初版～2刷 p.394	図中	$\beta_1, \dots, \beta_j, \dots, \beta_n$	$\beta_{i1}, \dots, \beta_{ij}, \dots, \beta_{in}$
初版～6刷 p.394	下から7行目	$\sigma_{1i}(\alpha) = \alpha$ であり、 $j \neq 1$ のとき、 $\sigma_{ji}(\alpha) = \alpha_j \neq \alpha$ です。 $\sigma_{1i}(\alpha) = \alpha$ で	$\sigma_{1j}(\alpha) = \alpha$ であり、 $i \neq 1$ のとき、 $\sigma_{ij}(\alpha) = \alpha_i \neq \alpha$ です。 $\sigma_{1j}(\alpha) = \alpha$ で
初版～2刷 p.395	下から11行目と 下から8行目 (式中5箇所)	(β_i)	(β_{1i})
初版～2刷 p.395	下から6行目～5行 目	$\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_n$	$\beta_{11}, \beta_{12}, \dots, \beta_{1n}$
初版～6刷 p.396	下から11行目	H' は L の元に	H' は M の元に
初版～3刷 p.398	本文 1行目	定義 5.6のくだり	定義 5.8のくだり
初版～8刷 p.403	下の図中	$Q((1+i)^4\sqrt{2}) \quad Q((1-i)^4\sqrt{2})$	$Q((1-i)^4\sqrt{2}) \quad Q((1+i)^4\sqrt{2})$
初版～3刷 p.404	下から4行目	$Q(\sqrt{2}i)$	$Q(\sqrt[4]{2}i)$

初版～3刷 p.406	6行目	$\sigma^{-1} \tau \alpha$ は	$\sigma^{-1} \tau \sigma$ は
初版～2刷 p.407	14行目	$g(x) = 0$ の解を $\beta_1 = \beta, \beta_2, \dots, \beta_n$ とします。	$g_i(x) = 0$ の解を $\beta_{i1}, \beta_{i2}, \dots, \beta_{in}$ とします。
初版～2刷 p.407	16行目	$\sigma_{ij}(\beta) = \beta_j$	$\sigma_{ij}(\beta) = \beta_{ij}$
初版～2刷 p.407	図中	$\beta_1, \dots, \beta_j, \dots, \beta_n$	$\beta_{i1}, \dots, \beta_{ij}, \dots, \beta_{in}$
初版～3刷 p.409	3行目～5行目の横あたりに赤字の解説を追加		追加→ Gの元として, σ_{i1} と σ_{j1} の積は $\sigma_{i1}\sigma_{j1}$ なので, Mに作用する自己同型写像として見ても, $\sigma_{i1} _M\sigma_{j1} _M = \sigma_{i1}\sigma_{j1} _M$
初版～3刷 p.411	1番上の枠内	問 6.19	問 6.23
初版～5刷 p.411	下から3行目	可解群である	可解群である」
初版～6刷 p.416	下から1行目～2行目	1の s 乗根を ζ 1の t 乗根を η	1の原始 s 乗根を ζ 1の原始 t 乗根を η
初版～3刷 p.417	3行目	$x^{st} - 1 = (x^t)^s - 1 = X^s - 1$ $= \prod_{0 \leq k \leq s-1} (X - \zeta^k) = \prod_{0 \leq k \leq s-1} (x^t - \zeta^k)$	$x^{st} - 1 = (x^s)^t - 1 = X^t - 1$ $= \prod_{0 \leq k \leq t-1} (X - \zeta^k) = \prod_{0 \leq k \leq t-1} (x^s - \zeta^k)$
”	5行目	$(\eta)^l \sqrt[t]{\zeta^k} (0 \leq k \leq s-1, 0 \leq l \leq t-1)$	$\sqrt[s]{\zeta^k} (\eta)^l (0 \leq l \leq s-1, 0 \leq k \leq t-1)$
”	下から9行目	1の原始 $n-1$ 根を	1の原始 $n-1$ 乗根を
初版～5刷 p.421	下から10行目	$\omega^5 + (\omega^2)^5 + (\omega^3)^5 + \dots + (\omega^4)^5 \sim$	$\omega^5 + (\omega^2)^5 + (\omega^3)^5 + (\omega^4)^5 \sim$
初版～3刷 p.426	下から3行目	$-\frac{q}{2} + \sqrt{\frac{q^2}{4} + \frac{p^3}{27}}$	$-\frac{q}{2} - \sqrt{\frac{q^2}{4} + \frac{p^3}{27}}$
初版～6刷 p.430	3行目	$[Q(\theta, \alpha), Q(\theta)] = 3$	$[Q(\theta, \alpha) : Q(\theta)] = 3$
初版～6刷 p.443	2行目右の図		
初版～8刷 p.445	12～13行目	【誤】 定理5.36より, $\text{Gal}(M/Q) \cong S_4/\langle \alpha \rangle$ であり, $ \text{Gal}(M/Q) = S_4/\langle \alpha \rangle = 12 \xrightarrow{\text{定理5.28}} [M:Q] = 12 \dots \dots \textcircled{8}$ 【正】 定理5.31, 定理5.34より, $[Q(s, t, u):M] = \text{Gal}(Q(s, t, u)/M) = \langle \alpha \rangle = 2$ 定理5.28より, $[Q(s, t, u):Q] = S_4 = 24$ また, 定理5.32より, $[Q(s, t, u):M][M:Q] = [Q(s, t, u):Q] = 24$ なので, $[M:Q] = 12 \dots \dots \textcircled{8}$	
初版～6刷 p.449	8行目	なっていないのかを仕組みを	なっていないのか仕組みを
初版～3刷 p.454	6行目	$(\sigma_j \sigma_i)(\zeta) = (\sigma_j(\sigma_i(\zeta))) = (\sigma_j(\zeta^i))$ $= (\sigma_j(\zeta))^i = (\zeta^j)^i = \zeta^{ij}$	$(\sigma_i \sigma_j)(\zeta) = (\sigma_i(\sigma_j(\zeta))) = (\sigma_i(\zeta^j))$ $= (\sigma_i(\zeta))^j = (\zeta^i)^j = \zeta^{ij}$

初版～6刷 p.454	下から5行目	$\sigma^4(\zeta) = \sigma(\sigma_3(\zeta))$	$\sigma^4(\zeta) = \sigma(\sigma^3(\zeta))$
初版～3刷 p.455	下から3行目	既約剰余類	既約剰余類群
初版～3刷 p.456	6行目	$(\sigma_j \sigma_i)(\zeta) = \sigma_j(\sigma_i(\zeta)) = \sigma_j(\zeta^i)$ $= (\sigma_j(\zeta))^i = (\zeta^j)^i = \zeta^{ij}$	$(\sigma_i \sigma_j)(\zeta) = \sigma_i(\sigma_j(\zeta)) = \sigma_i(\zeta^j)$ $= (\sigma_i(\zeta))^j = (\zeta^i)^j = \zeta^{ij}$
"	7行目	σ_j と σ_i の積を $\sigma_j \sigma_i = \sigma_{ji}$	σ_i と σ_j の積を $\sigma_i \sigma_j = \sigma_{ij}$
"	8行目	σ_{ji}	σ_{ij}
初版～3刷 p.458	下から9行目	ζ^{13}	ζ^{13}, ζ^{15}
初版～3刷 p.458	下から4行目	$\sigma^i(\zeta) = \zeta^{5\wedge i}$ です。 i に	$\sigma^j(\zeta) = \zeta^{5\wedge j}$ です。 j に
初版～6刷 p.459	9行目	$Q(\zeta)$ は累巡回拡大	$Q(\zeta)/Q$ は累巡回拡大
初版～3刷 p.459	上の枠下 2行目	$\times (Z/5Z)$	$\times (Z/5Z)^*$
初版～6刷 p.460	13行目	1の原始 5乗根を	1の原始 5乗根 ζ^{36} を
初版～6刷 p.462	2行目	$45x = 45$	$45x \equiv 45$
初版～8刷 p.463	本文 3行目	Q を含む	ζ を含む
初版～6刷 p.468	3行目	ベキ根拡大 $K(\sqrt[n]{a})$ は	ベキ根拡大 $K(\sqrt[n]{a}) / K$ は
初版～6刷 p.470	下から12行目	$G \supset \langle \sigma \rangle \supset e$	$G \supset \langle \sigma \rangle \supset \{e\}$
初版～6刷 p.476	定理 6.6	L のすべての x について	L のすべての元 x について
初版～3刷 p.476	証明 1行目	既約方程式	既約多項式
初版～3刷 p.484	7行目	$\sigma_i \left(\sqrt[9]{\sqrt[15]{3} + 1} \right)$	$\sigma_i(\sqrt[15]{3} + 1)$
初版～3刷 p.485	下から7行目	(文頭の) , ... ,	削除
初版～6刷 p.486	上の枠内 1行目	1の n 乗根	1の原始 n 乗根
初版～3刷 p.492	13行目	G の元には,	定理4.3より, G の元には,
"	下から8～5行目	これを σ としましょう。すると, $\sigma(\alpha_1) = \alpha_2, \sigma(\alpha_2) = \alpha_1, \sigma(\alpha_3)$ $= \alpha_3, \sigma(\alpha_4) = \alpha_4, \sigma(\alpha_5) = \alpha_5$ σ に対応する	これを τ としましょう。すると, $\tau(\alpha_1) = \alpha_2, \tau(\alpha_2) = \alpha_1, \tau(\alpha_3)$ $= \alpha_3, \tau(\alpha_4) = \alpha_4, \tau(\alpha_5) = \alpha_5$ τ に対応する
初版～3刷 p.493	6～8行目	これを τ とすると, $\tau^5 = e$ です。 G が S_5 の部分群であることを考えると, τ は ~ $\tau = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 5 & 1 & 2 & 3 & 4 \end{pmatrix}$ としましょう。	これを σ とすると, $\sigma^5 = e$ です。 G が S_5 の部分群であることを考えると, σ は ~ $\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 5 & 1 & 2 & 3 & 4 \end{pmatrix}$ としましょう。

初版～3刷 p.493	9～11行目	次に $S_5 = \langle \sigma, \tau \rangle$ を示しましょう。 $\tau^{-1}\sigma\tau = (23), \tau^{-2}\sigma\tau^2 = (34)$ $\tau^{-3}\sigma\tau^3 = (45), \tau^{-4}\sigma\tau^4 = (15)$	次に $S_5 = \langle \tau, \sigma \rangle$ を示しましょう。 $\sigma^{-1}\tau\sigma = (23), \sigma^{-2}\tau\sigma^2 = (34)$ $\sigma^{-3}\tau\sigma^3 = (45), \sigma^{-4}\tau\sigma^4 = (15)$
”	下から4～2行目	$\tau = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 4 & 3 & 5 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ であつても構いません。 この場合は、 $\sigma = (12), \tau^{-1}\sigma\tau = (54), \tau^{-2}\sigma\tau^2$	$\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 4 & 3 & 5 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ であつても構いません。 この場合は、 $\tau = (12), \sigma^{-1}\tau\sigma = (54), \sigma^{-2}\tau\sigma^2$ $= (31), \sigma^{-3}\tau\sigma^3 = (25), \sigma^{-4}\tau\sigma^4 = (43)$